

桐山靖雄

学歴詐称疑惑の一次資料集（完全版）

本人提出とされる履歴書・本人著書・同時代報道を照合する

本資料は、阿含宗開祖・桐山靖雄（本名・堤真寿雄）の学歴に関して公刊資料上に現れる相互矛盾を、出典の強弱を区別しながら整理した公開用調査資料である。

重要：本資料は「疑惑の検証」を目的とする。現時点で原誌面を直接確認できていない箇所は、二次転載・書誌情報に基づくものとして明示し、断定を避ける。

作成日：2026年8月29日

1 結論の要旨

現時点で最も強く確認できる事実は、桐山氏の学歴について、公刊資料上に互いに整合しない複数の経歴が存在することである。とりわけ、1968年に天台宗関係へ提出したとされる自筆履歴書の転載画像には「東京府立第四中学校卒業」「早稲田大学第一学院入学」「早稲田大学国文科入学」「病気の為中途退学」と読める記載がある。一方、桐山氏自身の後年の著書『現世成仏』については、大成中学校や日本大学系の教育機関に関する別経歴が記されていると複数の検証資料が指摘する。

さらに、月刊『宝石』1978年11月号、志茂田景樹「桐山靖雄とは何者か？」（記事全体は142～149頁）が、1970年提出とされる履歴書の「早稲田大学国文科中途退学」記載、および早稲田大学側の在籍記録に関する調査結果を掲載したと、複数の後続資料が一致して参照している。

検証上の注意 ただし『宝石』146・149頁の原誌面は、今回のオンライン調査では本文画像を直接取得できなかった。したがって「早稲田大学に在籍記録がなかった」という核心部分は、現段階では「原誌を指示する複数の二次資料による報告」として扱うのが適切である。

証拠評価

項目	現時点の評価
1968年履歴書の転載画像	画像そのものを確認。出典は『文化評論』1984年7月号63頁とされる。
1970年履歴書	『宝石』146頁、早川和広41頁を指示する二次資料で確認。原誌確認が望ましい。
早大在籍記録なし	『宝石』149頁を指示する複数資料で確認。原誌確認が最重要。
『現世成仏』の別経歴	書誌は確認済み。該当26頁・46～48頁の原本確認が望ましい。

2 方法と「一次資料」の定義

本資料では、単に「批判サイトに書いてある」という理由では証拠としない。証拠を次の四段階に分ける。

- A：本人が作成した文書・本人著書・大学等の公式回答の原資料。
- B：Aを写真・全文引用等で掲載した同時代の新聞・雑誌。
- C：Bの誌名・年月・頁を特定して引用する後続書籍・検証資料。
- D：出典を示さないネット上の伝聞。

学歴詐称を公に論証する場合、AまたはBを中心に据え、Cは補強に用いるべきである。Dのみで断定するのは避ける。今回確認できた1968年履歴書画像は、原本そのものではないが、『文化評論』掲載写真の転載と出典が明示されており、Bに近い資料として重要である。

「矛盾」と「詐称」は区別する

二つの経歴が矛盾していることは、そのまま直ちに「どちらが虚偽か」を確定するものではない。したがって公開文では、第一段階として「本人名義の経歴説明が相互に整合しない」、第二段階として「大学側の在籍確認等により一方が否定されたなら、虚偽記載の蓋然性が高まる」という順序で論証する。

3 資料 A : 1968 年提出とされる自筆履歴書

『文化評論』1984 年 7 月号（通号 280）掲載、柿田睦夫「『星まつり』の秘密—新興教団の“急成長”を支えるものは？」63 頁に、桐山氏の自筆とされる履歴書写真が掲載されたとされる。現在、同写真の転載画像を toyoda.tv および関連検証サイトで確認できる。

画像から読める主要学歴

年月	記載
昭和 13 年 3 月	東京府立第四中学校卒業
昭和 14 年 4 月	早稲田大学第一学院入学
昭和 16 年 3 月	早稲田大学国文科入学
昭和 18 年 8 月	病気の為右中途退学

この記載が真正な本人提出履歴書であれば、「早稲田大学国文科中退」を本人が公的・準公的な資格関係書類に記載したことを示す重要資料となる。

出典：toyoda.tv「桐山靖雄の詐欺的人生&教団の矛盾」学歴詐称節

<https://toyoda.tv/agonsyu.kyogi.hasyaku.htm>

出典：「目で見る桐山阿含宗の嘘とオカルト」履歴書資料 <https://agama.zouri.jp/eyes.html>

図版注：公開版では、権利処理と原誌確認の観点から『文化評論』誌面全体の無断複製は行わず、toyoda.tv 掲載の履歴書転載画像を参照図版とする。原誌の遠隔複写を取得できれば、出典表示を付して差し替えることが望ましい。

4 1968 年履歴書の内部検討

4-1 学校名「早稲田大学第一学院」

検証サイトは、当時の正式名称との関係から「第一学院」という表記自体に疑問を呈している。ただし、学校名の略記・記憶違いだけで在籍不存在を証明することはできない。この点は補助的論点に留めるべきである。

4-2 中学校経歴との衝突

履歴書では東京府立第四中学校卒業とされる一方、後年の本人著書『現世成仏』26 頁には私立大成中学校に関する別の経歴が記されている、と検証資料は指摘する。両記載が同一人物の同一時期を説明するものであれば、少なくとも説明を要する矛盾である。

4-3 大学経歴との衝突

1968 年履歴書では早稲田大学国文科中退。これに対し『現世成仏』46～48 頁について、後続資料は日本大学芸術系の教育機関に関する経歴が語られているとする。この点も、原著該当頁を直接確認して引用文脈を確定する必要がある。

検証上の注意 学校制度・旧制教育機関の名称は現在と異なる。入学資格の議論は、当時の学則・制度資料を確認せずに「中退だから絶対に入れない」と断定しない方が堅牢である。

5 資料B：1970年8月6日提出とされる履歴書

複数の検証資料は、桐山氏が昭和45年（1970）8月6日、小田慈舟師による金剛頂経講義の受講に際して履歴書を提出し、その最終学歴欄に「昭和十八年 早稲田大学国文科中途退学」と記載したとする。出典として月刊『宝石』1978年11月号146頁、および早川和広『阿含宗・桐山靖雄の知られざる正体』41頁が挙げられている。

二年の間隔を置いた別文書でも同じ「早稲田大学国文科中退」が記載されていたなら、1968年履歴書の記載が単純な一度限りの誤記だった可能性は低くなる。

二つの履歴書の関係

時期	提出先・目的とされるもの	学歴記載
1968年8月	天台宗の僧侶資格関係	早稲田大学国文科中退
1970年8月6日	小田慈舟師の講義受講関係	早稲田大学国文科中途退学
検証上の注意 1970年履歴書については、今回『宝石』原誌面の画像を直接確認できていない。公開時は「『宝石』146頁によれば」と出典主体を明示する。		

6 資料C：月刊『宝石』1978年11月号

国立国会図書館のレファレンス協同データベースは、光文社『宝石』6巻11号（1978年11月）に志茂田景樹「桐山靖雄とは何者か？」が142～149頁に掲載されていることを確認している。したがって、記事の存在・著者・掲載号・掲載頁は、批判サイトから独立した図書館書誌で確定できる。後続資料は、そのうち146頁および149頁を学歴問題の根拠として繰り返し指示している。

後続資料が『宝石』に帰している二つの核心情報

- 146頁：1970年8月6日付履歴書の最終学歴「昭和十八年 早稲田大学国文科中途退学」。
- 149頁：早稲田大学の在籍記録を調査した結果、堤真寿雄（桐山靖雄）の入学記録が確認できなかった、との趣旨。

もし149頁の原文がこの内容を明確に述べ、かつ調査方法（大学のどの部署に、どの氏名・生年月日で照会したか）が確認できれば、学歴問題の最重要証拠になる。本人の履歴書記載と、大学側記録の不存在を直接対置できるからである。

出典：国立国会図書館レファレンス協同DB：『宝石』1978年11月号の桐山靖雄記事（志茂田景樹、pp.142-149）
https://crd.ndl.go.jp/reference/entry/index.php?id=1000087596&page=ref_view

7 『宝石』149 頁を確認する際のチェックリスト

原誌を取得した際は、単に「在籍記録なし」という一文だけを切り取らず、次の点を確認する。

- 照会対象の氏名は「堤真寿雄」「桐山靖雄」のどちらか、または双方か。
- 旧字体・異体字・読み違いの可能性が排除されているか。
- 照会対象年度は昭和 14～18 年頃を適切に含んでいるか。
- 第一高等学院と大学学部の双方を調査したのか。
- 大学職員の回答を直接引用しているのか、記者の要約なのか。
- 「卒業記録がない」のか「入学・在籍記録自体がない」のか。両者は意味が異なる。

この確認を経て初めて、「早稲田大学中退という本人記載は、大学の記録と矛盾する」と強く表現できる。

推奨する公開表現

原誌確認前：「月刊『宝石』1978 年 11 月号 149 頁について、複数の後続資料は、早稲田大学に堤真寿雄の在籍記録が確認できなかったとの調査結果を掲載したと報告している。」

原誌確認後：「『宝石』1978 年 11 月号 149 頁は、（原文に即した調査方法）により在籍記録が確認できなかったと報じている。」

8 資料D：桐山靖雄『現世成仏』

桐山靖雄『現世成仏—わが人生・わが宗教』は力富書房から1983年7月に刊行されたことがCiNii Booksで確認できる。本人の自伝的著作であるため、経歴記述の比較対象として証拠価値が高い。

検証資料は、同書26頁を大成中学校に関する記述、46～48頁を日本大学系の教育機関に関する記述の出典として挙げる。これらが1968・1970年履歴書の「府立四中卒・早大国文科中退」と両立するかが問題となる。

出典：CiNii Books『現世成仏：わが人生・わが宗教』 <https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN07939893>

公開前に原本で確定すべき事項

- 26頁の正確な学校名、入学・中退時期、前後の文脈。
- 46～48頁の正確な教育機関名。「日本大学」本体か「芸術学園」等の別組織か。
- 「入学」「在籍」「聴講」「通学」など、本人が用いた動詞。
- 後年の著書で「大学を出ていない」「中学中退」等の自己説明があるか。

検証上の注意 「日本大学芸術学園」と「日本大学の正規学部」は同一とは限らない。名称を厳密に区別することが必要である。

9 資料E：早川和広『阿含宗・桐山靖雄の知られざる正体』

早川和広著『阿含宗・桐山靖雄の知られざる正体』は、あっぷる出版社から1986年5月に刊行された。国立国会図書館請求記号HR111-213、書誌ID 000001843438。国会図書館デジタルコレクションでは館内限定公開だが、個人送信対象とされている。

紀伊國屋書店の目次情報では、第2章が「嘘で塗り固められた桐山師の経歴」と題されており、学歴・僧歴問題をまとまって扱う資料であることが確認できる。

出典：NDLサーチ『阿含宗・桐山靖雄の知られざる正体』 <https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I000001843438>

出典：紀伊國屋書店ウェブストア（目次） <https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784871770217>

この本の位置づけ

刊行は問題発覚後であり、本人の一次資料ではない。しかし、同時代の新聞・雑誌記事、関係者取材、履歴書等を集約している可能性が高く、一次資料への「索引」として非常に有用である。特に41頁、114頁等、後続資料が具体的頁を示している箇所は原本確認の優先順位が高い。

10 資料F：『文化評論』1984年7月号

CiNii Journals では『文化評論』通号 280 が 1984 年 7 月号として確認できる。検証資料は同号 63 頁、柿田睦夫「『星まつり』の秘密—新興教団の“急成長”を支えるものは？」を履歴書写真の出典としている。

出典：CiNii Journals 『文化評論』通号 280（1984.7） <https://ci.nii.ac.jp/ncid/AN00371418>

この資料の価値は、問題となる履歴書を「写真」として掲載した点にある。後年の著者による要約ではなく、文書の筆跡・年月・記載形式を読者自身が確認できるからである。

原誌で確認すべきこと

- 63 頁の写真キャプションに、提出先・提出年月・入手経路がどこまで記されているか。
- 写真が履歴書全体か、一部切り抜きか。署名・日付・押印等が確認できるか。
- 柿田記事が履歴書の真正性についてどのような根拠を示しているか。
- 『宝石』記事や毎日新聞記事をどのように引用しているか。

11 資料G：毎日新聞「宗教を現代に問う 170」

複数の検証資料は、『毎日新聞』1976年6月24日朝刊3面「宗教を現代に問う 170」を、桐山氏の経歴・宗教資格等を検証した同時代資料として挙げる。連載「宗教を現代に問う」は毎日新聞社から1976～1977年に全5巻で単行本化されたことが大学図書館所蔵情報から確認できる。

ただし今回のオンライン検索では、1976年6月24日記事の全文を直接取得できなかった。そのため、本資料では記事の具体的断定内容を孫引きで確定せず、「原紙確認対象」とする。

原紙確認時の目的

- 学歴問題を直接扱っているか。
- 早稲田大学への照会が毎日新聞独自調査なのか、後の『宝石』調査なのか。
- 得度・伝法等の宗教資格問題と学歴問題を混同しない。

出典：大阪産業大学 中川米造文庫所蔵目録（『宗教を現代に問う』全5巻）

https://www.osaka-sandai.ac.jp/campuslife/pdf/collection_10.pdf

12 時系列で見る記載の化

年	資料	経歴上のポイント	確認度
1968	天台宗関係へ提出とされる履歴書	府立四中卒／早大第一学院／早大国文科中退	転載画像確認
1970	小田慈舟師講義関係の履歴書	早大国文科中途退学	『宝石』146 頁等の二次参照
1976	毎日新聞「宗教を現代に問う 170」	経歴・資格を検証したとされる	書誌・記事日付の二次参照
1978	月刊『宝石』11 月号	履歴書と早大在籍調査を報道したとされる	雑誌書誌確認／本文は要原誌
1983	桐山『現世成仏』	大成中学・日本大学系の別経歴とされる	書誌確認／該当頁要原本
1984	『文化評論』7 月号	1968 年履歴書写真を掲載	号数確認／誌面要原本
1986	早川和広著	上記問題を体系的に整理	書誌・目次確認

この時系列から重要なのは、「後世の批判者が一つの経歴を創作した」という構造ではなく、1970 年代から 1980 年代にかけて複数の媒体が同じ問題を追跡している点である。もっとも、各媒体が互いを引用している可能性もあるため、「独立した複数証言」と表現するには原文の依存関係を確認する必要がある。

13 反論可能性を先回りして検討する

反論 1 「旧制学校なので名称が違うだけ」

名称の誤記だけなら、早稲田在籍そのものを否定する証拠にはならない。したがって主論点は名称ではなく、大学側の在籍記録と本人履歴書の一致・不一致である。

反論 2 「ペンネーム・改名のため記録が出ない」

大学在籍時の本名が堤真寿雄であったなら、その名での照会が必要である。『宝石』がどの氏名で調査したかを原誌で確認する必要がある。

反論 3 「日本大学系の学校にも後から通った」

時期が異なれば両方に在籍した可能性は論理上残る。『現世成仏』の年月記載を確認し、早大在籍期間と重複するかを検討すべきである。

反論 4 「自伝は文学的表現であり履歴書ではない」

その場合でも、本人の公刊著書が履歴書と異なる経歴を読者に提示した事実は残る。ただし「どちらが虚偽か」は外部記録で確定する必要がある。

反論 5 「雑誌記事が誤報だった」

最終的には早稲田大学の学籍資料・公式回答が最も強い。『宝石』の調査方法を確認し、可能なら現在の大学史資料・校友名簿等から補助検証する。

14 公開用本文案

以下は、現段階の証拠強度に合わせ、過度な断定を避けた公開用の文章案である。

「桐山靖雄（本名・堤真寿雄）の学歴については、本人が提出したとされる履歴書と、後年の本人著書との間に看過しがたい相違がある。『文化評論』1984年7月号63頁に掲載されたとされる履歴書写真には、昭和13年に東京府立第四中学校を卒業し、昭和14年に早稲田大学第一学院、昭和16年に早稲田大学国文科へ進み、昭和18年に病気のため中退した旨が記されている。」

「また、月刊『宝石』1978年11月号146頁について、複数の後続資料は、1970年8月6日付の別の履歴書にも『早稲田大学国文科中途退学』と記載されていたと報告している。さらに同149頁は、早稲田大学側の記録調査で堤真寿雄の在籍を確認できなかった旨を報じたとされる。」

「一方、桐山自身の1983年の著書『現世成仏』については、大成中学校および日本大学系教育機関に関する別の経歴が記されていると指摘されている。したがって少なくとも、桐山が公に示した学歴説明には相互に整合しない部分が存在する。『宝石』149頁の大学照会記事が原誌で確認されれば、『早稲田大学国文科中退』という履歴書記載の真実性を判断するうえで極めて重要な資料となる。」

検証上の注意 原誌確認前は「学歴詐称が確定した」と言い切るより、「学歴詐称を強く疑わせる資料」「本人の経歴記載に重大な矛盾」と表現する方が、史料批判上も公開上も堅牢である。

15 引用元一覧・書誌

著者・媒体	資料	備考
桐山靖雄	『現世成仏一わが人生・わが宗教』	力富書房、1983年7月。CiNii Books NCID BN07939893。
柿田睦夫	「『星まつり』の秘密—新興教団の“急成長”を支えるものは？」	『文化評論』1984年7月号（通号280）、新日本出版社。履歴書写真は63頁とされる。
志茂田景樹	「桐山靖雄とは何者か？」	光文社『宝石』6巻11号、1978年11月、pp.142-149。国会図書館レファレンス協同DBで記事情報を確認。後続資料は146頁・149頁を参照。
早川和広	『阿含宗・桐山靖雄の知られざる正体』	あっぷる出版社、1986年5月。NDL請求記号 HR111-213、書誌 ID 000001843438。
毎日新聞	「宗教を現代に問う 170」	1976年6月24日朝刊3面とされる。原紙・縮刷版での確認を推奨。
toyoda.tv	「桐山靖雄の詐欺的人生&教団の矛盾」	履歴書転載画像および出典整理。
agama.zouri.jp	「目で見る桐山阿含宗の嘘とオカルト」	『文化評論』履歴書資料と文献一覧の転載。

主要 URL

<https://toyoda.tv/agonsyu.kyogi.hasyaku.htm>

<https://agama.zouri.jp/eyes.html>

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R100000002-I000001843438>

https://crd.ndl.go.jp/reference/entry/index.php?id=1000087596&page=ref_view

<https://ci.nii.ac.jp/ncid/BN07939893>

<https://ci.nii.ac.jp/ncid/AN00371418>

16 今後の一次資料確定作業

この資料を「疑惑資料集」から「一次資料に基づく確定的検証」へ進めるため、次の四点を原本で取得することが最優先である。

- 『宝石』1978年11月号146頁：1970年履歴書の写真・全文。
- 同149頁：早稲田大学への在籍照会の原文と調査方法。
- 『文化評論』1984年7月号63頁：1968年履歴書写真とキャプション、入手経路。
- 桐山靖雄『現世成仏』26頁・46～48頁：大成中学・日本大学系経歴の正確な本文。

国立国会図書館では『宝石』が所蔵され、遠隔複写の利用が可能な書誌となっている。『文化評論』も国会図書館デジタル化資料として号単位の存在が確認できる。早川本は個人送信対象である。これらを入手して差し替えれば、各主張を「孫引き」から原資料引用へ格上げできる。

今回の原資料探索で確定できたこと

- 『文化評論』1984年7月号は通号280である（CiNii／NDL系書誌で確認）。前版に「281号」とある場合は280号へ訂正する。
- 『宝石』1978年11月号の記事は、志茂田景樹「桐山靖雄とは何者か？」で、掲載範囲はpp.142-149である（国立国会図書館レファレンス協同DB）。
- 1968年履歴書の転載画像そのものはtoyoda.tvで閲覧でき、学歴欄には「東京府立第四中学校卒業」「早稲田大学第一学院入学」「早稲田大学国文科入学」「病気の為右中途退学」と判読できる。
- 一方、『宝石』146・149頁および『現世成仏』26・46～48頁の原誌・原著ページ画像は、公開ウェブからは今回直接取得できなかった。ここは遠隔複写・所蔵館閲覧が必要である。

最終評価

現段階でも、1968年履歴書画像と、1970年履歴書・1978年『宝石』調査・1983年本人著書を結ぶ資料系列は明瞭であり、桐山氏の学歴説明に重大な不整合があるとの問題提起には十分な根拠がある。ただし「早稲田大学に在籍しなかった」との核心を最終確定するには、『宝石』149頁原文または大学側一次記録の確認が決定的である。

以上